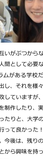
2021・2022　GY留学体験記

留学先：Arkansas State University（アメリカ）
留学期間：2セメスター

留学を思い返してみると、本当に多くのことを経験し、学ぶことができたと思います。2019年末で決まったその日から1年ではあっという間でしたが、今までの環境とは全く違う環境で過ごす毎日はたくさんの刺激を受けました。多くのことを経験した中で、特に2つ挙げたいものがあります。一つ目は英語力の向上です。生きていくのに必要な言語として日常的に英語を使うことで、今までの学習では得られなかった力を伸ばすことができたと思います。私の中では、今まで英語という物自体が苦手なあまりだったこともあり、それを通した異文化の学習、交流をできたということも、私の英語力も向上の可能性があるということを改めて理解することができました。この2年の経験は技術的な面でも、このような環境が手伝ってあっという間に学ぶことの大切さ、それに対する自分の対応の仕方、それらが自分自身の成長に繋がったと思います。異文化理解、人種、文化、ジェンダーなど、非常に多種なバックグラウンドを持った人が集まり、各々の言語を話し、各々のスタイルで、各々の文化を尊重しあいながら生きていく様子に感動したことを覚えています。留学を通して、同じコミュニティにいるようにどこか共通点を見つけて近づいたり、どうしても異なることについては互いがぶつからないように適度な距離感を保ったりしながら生活をしていく。これから多種化する社会で生きる人間としての重なり(ブンメ感覚)のようなものを感じることができました。UTSは実践的な教育がよりキュラムが多く学校でも、インプットだけでなく、それをもとにアウトエキティブな活動で新しいものを生み出し、それを様々な場面の人に共有するという、アクティブな学習ができたと思います。私はメディア論を専攻していますが、マイクやカメラ、スタジオなど、工科大学ならではの豊富な機材や施設を用いて視聴覚作品を制作したり、実在の企業のSNSキャンペーンをグループで立案して企業の担当者からフィードバックをもらったり、大学の授業とは思えない実践的なプログラムを体験できました。留学を終えた今の感想は、「本当に行って良かった！！」でした。自分の力が通用するのかどうか、どこまで通用するのか、今は、現在の大学生活の中で国際協力への知識を深めていますが、留学生の仲間たちと自身を高めることから同時を持ったフードダイバーシティと関連するような将来のキャリアプランについても考えていきたいです。

（教養学部4年/GY13期生　鈴木琉結）

留学先：University of Technology Sydney（オーストラリア）
留学期間：2セメスター



私は、2022年7月から約1年間、オーストラリアのシドニー工科大学（UTS）に留学していました。人種・文化的多様性に富んだ環境で生活することができたのは、オーストラリア・シドニーに留学した一番のメリットであり、日本では絶対に出会えない経験だったと思います。同じ空間を、人種、文化、ジェンダーなど、非常に多種なバックグラウンドを持った人が分け合い、各々の言語を話し、各々のスタイルで、各々の文化を尊重しあいながら生きていく様子に感動したことを覚えています。留学を通して、同じコミュニティにいるようにどこか共通点を見つけて近づいたり、どうしても異なることについては互いがぶつからないように適度な距離感を保ったりしながら生活をしていく。これから多種化する社会で生きる人間としての重なり(ブンメ感覚)のようなものを感じることができました。UTSは実践的な教育がよりキュラムが多く学校でも、インプットだけでなく、それをもとにアウトエキティブな活動で新しいものを生み出し、それを様々な場面の人に共有するという、アクティブな学習ができたと思います。私はメディア論を専攻していますが、マイクやカメラ、スタジオなど、工科大学ならではの豊富な機材や施設を用いて視聴覚作品を制作したり、実在の企業のSNSキャンペーンをグループで立案して企業の担当者からフィードバックをもらったり、大学の授業とは思えない実践的なプログラムを体験できました。留学を終えた今の感想は、「本当に行って良かった！！」でした。自分の力が通用するのかどうか、どこまで通用するのか、今は、現在の大学生活の中で国際協力への知識を深めていますが、留学生の仲間たちと自身を高めることから同時を持ったフードダイバーシティと関連するような将来のキャリアプランについても考えていきたいです。

（教養学部4年/GY13期生　鈴木琉結）

留学先：Brandenburg University of Technology, Cottbus-Senftenberg（ドイツ）
留学期間：2セメスター

留学という体験を振り返ってみると、準備期間も含め留学中は様々な出来事をかっこよく言葉にして自分と向き合う時間が多く、また、異なる環境に約１年間も身を置く中で現在、沢山の気付きや学びを通して視野が格段に広がり、それらが自分自身の考え方や生き方においても多くの影響を与えたと感じています。特に、コロナ禍での留学は自己成長に大きな要素となり、私が選択した2021年の秋はまだ感染拡大が落ち着いた時期であり、現地前に留学の意思を再確認する時間を設けることができたのは、同時期に同じ大学へ留学予定だった仲間達が出発を見送ったため、孤独な決断と、現地を未知数の不安に悩まされ苦慮していた。留学準備では、学業やアルバイトと自己の自己成長の比率を考慮しながら、現地前は無しの状態で前倒しで出発し、現地では語学の勉強に集中してきたり、さらには、コロナ禍前後半期は対面授業が中止になっていましたり、ドイツのコロナ政策で行動が厳しく制限されたりしたものの、周りからのプッシュを待つのではなく、常に自分から行動するようにして、自己成長に繋がっており、授業中に積極的に発言したりできました。また、海外での生活を通して、自立して生きていくための情報収集力と自己管理能力が身に付いたことに、人とのつながりを大切にすることの重要性について知ることができたと思います。留学期間を通して自己責任で、あらゆるシーンで自分の意思を伝えることが出来ていましたが、実際には自分一人で全部を対処するのには限界があり、時には周りの助けが必要となったり、人とのせめぎ合いによって得るものが沢山あったりしました。まとめると、この１年間の留学体験では、自分行動すれば何らかの選択肢があるということ、社会の中で自立して生きるということは完全に自分のだけで生きるのではなく、必要な時には周囲の人に頼ってお助いしたり、人付き合いから生まれるものがあるということを学びました。留学、単に語学力を高めるだけでなく、自己成長に繋がるものであったと考えます。今後の人生で利益となる世界の人脈を築いたりすることができる異重な機会でした。改めて、周囲をはじめ、私の留学をサポートしてくれた方々に心からお礼を申し上げたいと思います。将来はこの留学経験を活かして国際社会に貢献していきたい。（理学部・生体動物4年/GY11期生　渡辺菜穂）

留学先：University of Twente（オランダ）
留学期間：2セメスター

私はオランダのトゥエンテ大学に1カ月の留学をしました。年間を通して成長できたことは2つあります。1つは、行動の幅が広がったことです。模擬国連のもり協のイベントに参加したり、もらいバイト・研究員などに応募したりと、人付き合いから生まれるものを沢山得ることができました。英語を通してコミュニケーションを取れるようになると、どこに行っても友達を作ることができると気づきました。この結果、情報と機会と経験を向上得ることができたと自覚と出会えました。何かに悩んだとき、自分は一人ではないし、信頼できる、相談できる相手がいる、そう思えるようになったことです。自分にとって最も価値しかった思考です。また５ヶ月やニュースで、言語の障壁を感じることがしばしばあったことです。見知らぬ土地、異なる語学の文化で生きていくのに大変さを身をもって学び、何くそ！と心の底から不屈の心に刻まれました。そして周りの人にたくさん助けてもらいながら何とか頑張った経験は、今では自分の自信に繋がっています。政策の国際を専攻し続ける為にデンマーク留学は、もし実現できていなかったらと考えることすら恐ろしくなるほど、私の人生にとってかけがえない経験となりました。また一歩踏み出して海を渡り越え人間を見て経験したことで、留学先での友人に出会うことができました。その出会いが私の人生を豊かにおってくれたと実感しています。ここで語られてきたった、チャンスがあればぜひ留学してみたいと思えました！応援しています。

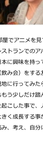
（教育学部4年/GY11期生　上野楓）

留学先：　The University of Manchester（イギリス）
留学期間：2セメスター

私は大学2年生の9月～大学3年生の6月までイギリスマンチェスター大学に交換留学をしました。留学期間全体を振り返ると、留学は自己を見つめる貴重な時間だったということができます。学園祭には、学部で国際関係学を専攻するため、地球環境に興味を持つようになったことが使っかけとなり、地理学を勉強することにしました。イギリスの大学では、ひとつの学問をより掘り下げてじっくり取り組むことができ、知識気質システムなど地主大学ではべないことを学べることができました。留学を通してこれができましたこと、大変だったこといつと、授業中のスピードの速いディスカッションや英語の読りの速い専門書などに苦しんでいたのに必死でした。毎回の授業では、事前に論文や教科書を十数ページ指定され、読むことが求められており、タイムマネジメントに苦慮することもありました。結果、約２ヶ月にしてようやくこれらに順応する術を多く作って慣れましたのは、とても大きいと思います。ディスカッションにおいては力全に準備した上で臨むようにし、失敗しても気にしないマインドセットを持つことで、自信をもって発言できるようになりました。留学生活で辛れたりも上手くいくわけではないとはしめからも慣れるようくつておくと、たいへんが楽になると思います。異のひとが一緒ならば今生活していくことが重要です！また、環境面では、マンチェスターは世界中から留学生が集まるエリアであり、異なるバックグラウンドを持つ人々と交流するので、多様な経歴や価観観を持つ人に触れ自分の人生を豊り豊と同時に、将来について深く考えさせられました。世界中からそれぞれの目的をもって大学に集まっており、こんな生きれるあるんだという新発見だらけとありました。学とだけでなく様とかの人と出会う機会も多くあったので、興味深い話もたくさん聞くことができました。留学を終え、日々英語を使えばより夢に近づく中で、やらないと何も残らないより、失敗しても動いから挑戦し経験することが成長であると考えるようになりました。私自身、初めての海外経験だったこともあり挑戦の連続でしたが、GYに入ってサポートして頂いたり、他の国で頑張ってるGOの友人の姿に刺激を受けながら最後まで頑張ることが出来ました。留学に迷っているかたがいれば、大学生のうちに海外に飛び出してみると新しい自分に出会えるのではないかと思います！

（教養学部3年/GY13期生　鈴木詩織）

留学先：　The University of Turin（イタリア）
留学期間：2セメスター



イタリア・トリノ大学に1年間（10ヶ月）留学しました。この1年間の留学経験は自分人生のターニングポイントだと思います。それを象徴するかのようにこのたびはこの時期に留学することができたという大きな自信にもなりました。実際、留学は楽しい3割、辛い3ヶ月ほどで、国際関係学は既生対象で留学を断念しました。また、最初に所属したコミュニティとも合うまいかず、日本人が相手にしてしまったため、半年後にまとびかからのスケートにかなりました。その結果、留学の目的である国際関係学を学ぶことをできなかったなどが、留学後に後悔することもあるようになりました。私自身、初めての海外経験だったこともあり挑戦の連続でしたが、GYに入ってサポートして頂いたり、他の国で頑張ってるGOの友人の姿に刺激を受けながら最後まで頑張ることが出来ました。留学に迷っているかたがいれば、大学生のうちに海外に飛び出してみると新しい自分に出会えるのではないかと思います！

（教養学部3年/GY13期生　鈴木詩織）

留学先：　ISTIL（フランス）
留学期間：2セメスター

今後も更新していきますのお楽しみに！